

広報 おおづ

12

DECEMBER 2021



「通いの場」から 体も心も元気に!

今月の表紙

真木地区の「通いの場」の活動風景をご紹介します。月に2回、地域のボランティアの皆さんと一緒に「いきいき百歳体操」などを行っています(7ページ参照)



広報が読める
スマホアプリ
マチイロ

UD
FONT
見やすくて読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2021 12

発行・編集 ■大津市・総合政策課
〒869-1292 熊本市野地郡大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/> ※広報おおづは郵政に認可して発行され、郵便物として扱われます。



保護委員の皆さんは、年に一度「広葉樹2000年の森」の草刈り活動を行っています。



「木」はなくてはならない存在。 だからこそ、守り続けたい。

いえいりまさゆき
家入正幸さん(高尾野)

町には、町有林の見守りや管理などをする8人の町基本財産林保護委員(以下、保護委員)がいる。その代表を務める家入正幸さんの「木」に対する思いにクローズアップする。

保護委員の主な活動は、町有林が自然災害や有害鳥獣により荒らされていらないか、誤って伐採されていないかなど、町有林の生育管理である。町有林が占める面積は、約620ヘクタール、この面積を8人で管理している。

8人の保護委員それぞれに担当区域を割り振り、活動を行う。家入さんは主に矢護川の森林を巡視している。保護委員になって、今年で8年。保護委員になる前は、山に携わる仕事をしていたことがあり、定年退職後も、農業を営みながら保護委員の活動をしている。

「家などに使われる木は、苗から植えて伐採までに40年〜50年かかります。苗を植えて終わりではありません。時間をかけながら、下刈りをし、つる切り・除伐をし、間伐をするといった工程を繰り返すことで、木は大きく成長できます。だからこそ、植樹後の管理はとても大切なのです」と家入さん。

保護委員の活動を続ける中で、「木は、自分の子どものように大切な存在です。定年前に仕事で植えた木が、今では立派な成木に成長している姿を見ると感動します。四季に合わせて姿を変え、伐採後も木材として家などに姿を変えて生き続けるその生命力の強さは、時に私を励ましてくれます。山の中は、危険を多く伴いますが『素の自分であらねる』唯一の場所です」と家入さんはうれしそうに話す。

木は材木以外に、自然災害から守る働きもある。木の適切な伐採が行われていないと、土壌が荒れ、土砂災害が起こりやすくなる。木の成長を守り、町の生活環境を守るためには、森林を管理し続けることが大切である。町の美しい森林風景は、家入さんたちの活動によって後世に残り続ける。

からいもくん便り 大津町公式 アカウント

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jp に空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。



二次元バーコード

友だち追加の方法
●LINEの友だち追加の画面から「@ozutown」で検索する。
●次のバーコードを読み込む。



二次元バーコード



こゝの声

▼1年が経つのは早いなあと感じるのですが、今年は役場に入庁して初めての年です。慣れない仕事を覚えるのに必死で、1日経つのが早く感じます。▼真木地区のミニデイの活動に取材にいきました。参加している皆さんが、笑顔で運動されている姿を見て、とても元気をもらいました。コミュニケーションを取りながら運動するのは大事なことです。(50)